

観察会報告
井川県民の森観察会
朝倉久美子



観察会の様子

11月4日、紅葉と野鳥をダブルで楽しめる観察会に参加した。9時、静岡駅に集合した総勢10名は3台の車に分乗し、大道芸で賑わう町を後に井川県民の森を目指す。

はじめのうち紅葉はまだ早いのかなあと思っていたが、標高を増すごとに彩りも増していく。リバウエル井川を通り過ぎ、最初の観察ポイントで車を降り観察開始。数種類のカエデの比較を杉野先生と阪尾先生から教えていただく。両先生ともお元気で足が速い！ホソエカエデとウリハダカエデの違いなど、聞いたことをメモしたり、写真を撮ったり、拾った落ち葉をノートに挟んだり、もたもたしているうちに置いていかれそうになる。鹿柵で囲われたヤナギランの保護地は入り口に大きなマユミの木があり、実が美しく色付いている。中に入るとリンドウやアキノキリンソウなどがひっそりと咲いていた。林道沿いのベンチでお昼を食べた後、少し車を進めて井川峠へ向かう道を歩く。両先生の講義のおかげで、カエデの違いが少しずつわかるようになってきたが、林床の植物はさびしいように感じた。鳥の声も少ない。Silent Springならぬ Silent Autumnなのかなあと、このところの気候変動や災害のことを考えてしまう。

さらに車を奥に進めると、車窓から南アルプスに続く山々の紅葉がきれいに見える。何



ホソエカエデの紅葉



マユミの実

度も大雨で林道が崩れていないか心配したが崩れているところはなく、山伏岳への登山口、百畳平に無事着いた。そこが本日の終点で少し休憩してもと来た道を引き返した。

野鳥はほとんど見られず、一日で観察できたのはわずかにヒガラ、シジユウカラ、ヤマガラ、モズ、ウソ、コゲラ、カケス、ヒヨドリなど。カモシカも現れなかった。

植物の分類といえば「食べられるか食べられないか」に重きを置く私達（野鳥の会のタマちゃんと私）は、「わかりにくい違いこそ分類して楽しい」という杉野先生のお言葉に大いに反省した。

雨が多かった10月が終わり、やっと秋らしくなった山での楽しい一日だった。ありがとうございました。